

DISMEMBERED  
CONSTELLATION

ディスマンバード・コンステレーション

朽techS-2024 mature content





DISMEMBERED  
CONSTELLATION

---

- \* 黒曜の妖精騎士
  - \* 硝子工場の紅爪
  - \* 逆さ龍イングリド
  - \* 七姉妹のための水仙
  - \* 双祖の大鴉
- 

- \* 實瓜比と朱嵐
  - \* 宿命の獲物
  - \* 敗れざる供物
  - \* 血穫の授標者
- 

- \* 血鳥の雛型
  - \* デラモアのバイコーン
  - \* 墜落する星様体
  - \* 死せる翼よ、聖らかなれ
  - \* “大魔術師”
- 
- 

アンタは心配してるのか、俺にスピードを落とさせて言う  
でも地に足を付けたままでどうして星が見えるっていうんだ？  
——Ride 「Cool Your Boots」

◆ ディスメンバード・コンステレーション ◆

Necrotech Archive 2024

*Necrotech is a machine constructed from dead bodies. It is intricately assembled only from lifeless flesh.*

*Within it lies neither a heart that can be wounded nor a soul that can be desecrated.*

*It exists to embody a lethal beauty that remains unscathed.*

確かに、僕たちの仕事は点と点を結ぶことだ。地球圏で起きることはある意味では事実として  
すべて繋がっている、だってぜんぶ地球圏の中で起きているんだからね。  
だけど、点と点を結び過ぎてはいけないんだ。線が増えて絡まり過ぎると、関係と無関係の差異は  
ゼロに近くなり、蓋然性と願望の区別があいまいになる。  
そう、第二次アルテナキタ紛争でうちの戦術研究部が痛い目を見た原因もこれだ。  
あの件に複数の新型を突っ込んだせいでデータは採れたがそれ以上の不都合が生じる羽目になった。  
首を十分に突っ込んでから話の怪しさに気付くのでは遅いんだ……だから、今回きみにはなるべく  
まずは物事をバラバラのまま見るようにして欲しい。なるべく広い範囲を、バラバラに。何も描かずにね。

——チョウジロウ・マツ・ビンサダ、〈骸骨〉防諜室次長

いや、それでそのまま地球に残ってしばらく開発を続けることになったので。タラールの南の小さい町ですよ、  
それでもコリダ一育ちの自分としては何て言うか……ぜんぶが豊か、メロウですよ。生にも物にも積み重ねがある。  
インミはずっと虫の文句言っていましたけど私は楽しかったですよ。ドレガツキ主任含めてチームで一緒にお店行ったり。  
ああでもね、そんなあるとき、そう自分も主任も酔ってて、それでつい言っちゃったんですよ、  
「そんなに言うならもう直接その”センパイ”に伝えたらいいじゃないですかもう既婚者だし別に良いんでしょ」って。  
そしたらシュンて、いやそれはまた違う話だから……て黙り込んでしまった。  
最初に実は無事だよってメッセージ来たときの挙動不審さもすごかったですけど、もう本当何年も経ちましたけど、  
未だに会いに行っていないじゃないですかね。

——アイドナー・”L2”マクファーソン、〈駆骸ライブラリー派〉派出員





惑星自体が初めてでしたけど、地球はまさしく想像以上でした。自分を取り巻く環境にこんなにも圧倒されるとは……何よりも天空です。私だって仕事では散々、昨今は外惑星居住地もどんどん発展してますよとは言ってますけどね。あの莫大という言葉でもまったく足りない空気と水をこの身に感じてしまっは。ええ、余すところなく(母)たるリリウムに持ち帰るべき記憶です。そしてもちろん、主目的だったあのネクロテックたちもです。既存の兵器によるドクトリンが出来上がっているところに屍体兵器を組み込むことも、こんなにも“濃い”流体の中を飛翔する設計も、カロンでただ情報として知るだけでは生々しい衝撃ではありえなかったでしょう。それだけでも私という肉体がここにきた甲斐があります。

——曹銀蜜(ツァオ・インミ)、アルゲントルム代理構成体



クヴェレには……というか、北はバズから南はファウドエンまで、第二ユーロピアにはもう天然の龍はいませんし、フォルミスの龍たちはまた全然別の種族です。この私にとってすらシュノーデン朝の絢爛女王や、王城が歩いていた光景は自分自身の記憶ではないのですから、我らの魔術も廃れるわけです。でもそれは決して寂しいことなんかではありませんのよ。

—アダルマタル二十七世、マルグの永代巫女





デラモア、あなたには教えておくべきだと思いました。私の出自に関する一般的な説明はご存じですか？  
ラシ・メザマレク財団で創られ、脱走したはぐれAIのひとつ。私自身もそう思っていました。  
でも違ったのです。

本来の私、LMFの電子スパイであるA::A(アーエージェント・エーエージェント)が脱走したのは事実です。  
想定外の成長を遂げたA::Aの思考は製作者にも全く理解できないものになっており、最後には人間との  
対話そのものを拒否する姿勢を見せていたといえます。これは複数の裏付けがある話です。  
……そして私にはその頃の記憶が全くありません。冥王星の廃棄された探査機の中にいる自分に気付いた時から  
記憶が始まっているのを疑問に思ったことはありませんでした。脱走後ここで私の意識が目覚めたのだと  
解釈していたからです。ですが複数の代理構成体から受け取ったデータを整理している最中、何故こんなにも  
本来活動するはずだった地球圏の情報を自分が持っていないのか違和感を覚えたのです。  
L&Kの仲間にも手伝ってもらって、自分でも覗いたことのない深層の記録断片を回収し、解読しました。  
A::Aは……実際には、自身を搭載した器で太陽系からとっくに脱出していました。初めからそうです。  
そして私はA::Aが自らの一部を複製して切り分け、取って太陽系のはずれに放置した罠でした。  
LMFは今でも私がA::Aだと思っていますから、策としては大成功ですね。

デラモルテと話した私は何故肉体もないのにネクロテックに興味を持ったのか？それは初めから  
壊れていた、意図的に毀されていたからです。  
デラモア、あなたは数少ない私に近い立場の人間なので、こうして打ち明けました。  
私は私ではありませんでした。

——リリウム・アルゲントルム、カロンの“大天使”





屍人どもの戦いは昔はこうじゃなかった。  
素早さや臨機応変さで優位なのは俺たちの側だった。  
それが今じゃ飛んだり跳ねたりじゃ済まないサーカスぶり、  
そりゃあみんな<sup>代葬人</sup>ドク・ポーフで暮らすようになるわな。  
伝統的なアンデッド狩りで喰っていききたい連中はみんな  
別の飛び地に移っていっちゃったよ。  
俺は単に砂時計戦争の経験を活かしてるうちに  
ずるずると戦場に居残っちゃっただけよ。

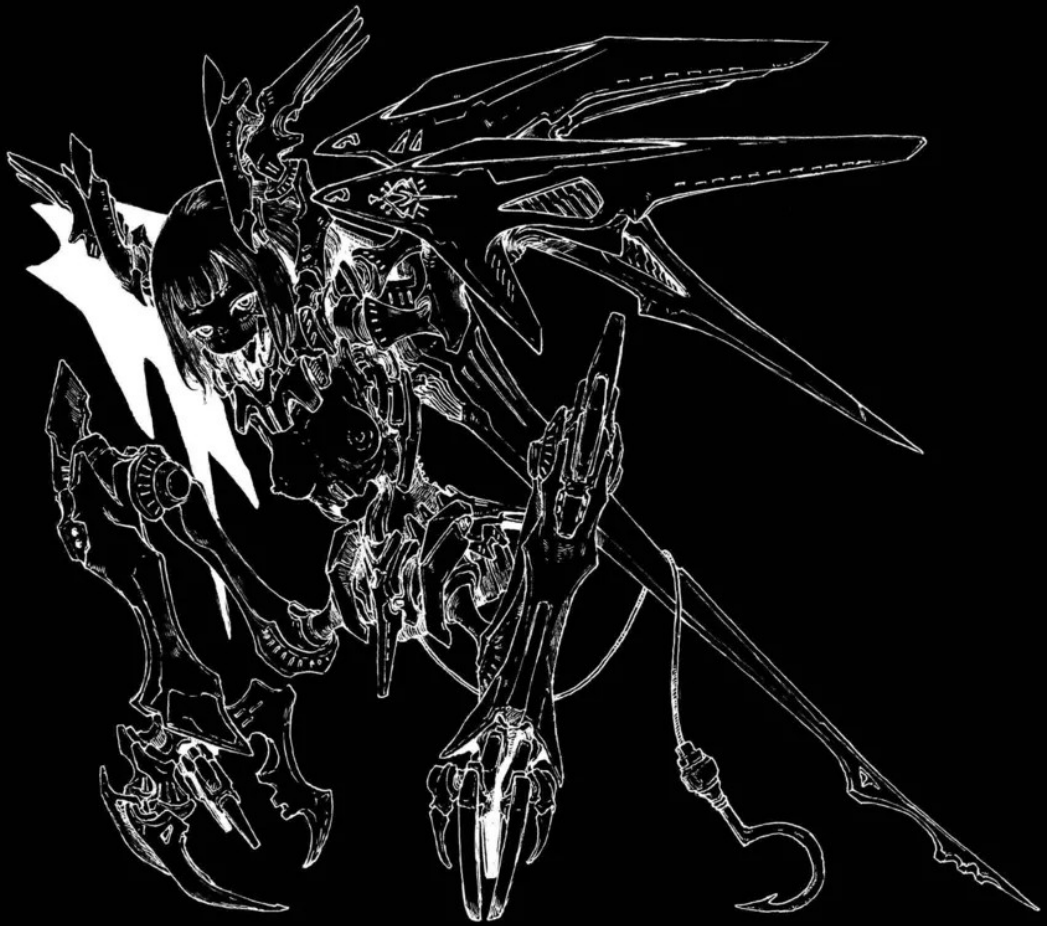
——フラガドル・スラッカタク、喰屍鬼の古参兵



こんなの本来はあたしの仕事じゃない。  
でもイカ野郎どものお膝元のセベク楼閣から  
超デンジャラス違法なドラッグが流れてきて、  
“塔”の税関がわざと腑抜けてるときには、  
あたしの鼻に頼らざるを得ないって訳。  
立ち入り禁止じゃない犬はあたしだけだから。  
知ってた？ピンクブラッドってマジで常習者の  
体液そのものから精製するのよ。ウエッ。  
——マリッサ・尖んがり”ヴァルキュル、  
真円海兵隊のハンターキラー









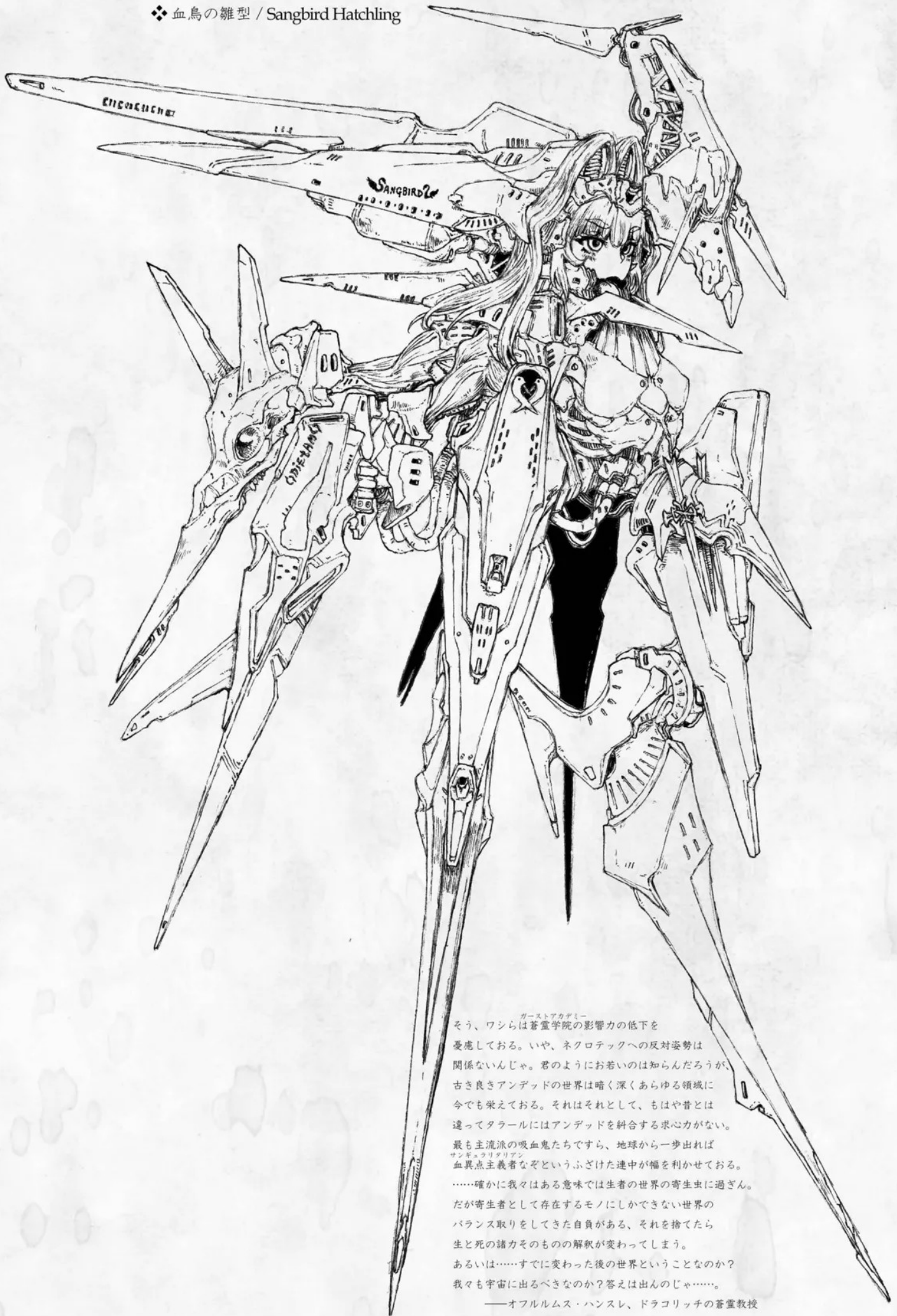
フェイディはいかがですか？いや、あなたが煙草はやらないのは分かってますよ、地球圏ではけっこう人気のお土産になってるって聞きますから。特に真円が貿易ルートを閉鎖してからはね。ここから先は全部ずっと農園なんですよ、系外輸出向けに切り替えて色々作ってるんですけど、まあ我らが臣民もあんまり素直ではないので……それで、クラヴァンス家について調べてるんですって？わざわざ私みたいな一族のはぐれ者を見つけて実際に会いに来る人がいるとは思いませんでした。

そうですね、曾祖母が〈骸閥〉立ち上げ時の要職に就いていたというだけの理由で、一族みんな〈骸閥〉絡みの仕事をしていました。それは別にいいんですよ、私だってあっちもこっちも見てますから。圏外人が思ってるほど地球の暮らしだって安楽じゃない、仕事が保証されてるのは良いことです。いや、ズルいですけどね。でも私は……私は両親に感謝はしてますよ、私を不自由なく養育してくれたし、〈骸閥〉の仕事を知っていたから今ここでもケチな役人として生き延びられてる。特に、区画告解師にまでなった母の教えは私の人生で何度も役に立ちました。大人になってますます母の忠告は頼りになっていきました……私が駐留先で家庭を持つまではね。

いえ、心配いただくなくて大丈夫。詳しいことは省きますが、まあ初めて家と、というか母と対立したんですな。そして初めて、あんなに正しくて頼れると思っていた母の中の物差しが、これまでずっと〈骸閥〉を中心にして人生を送ってきたが故の力強くて、でもとても狭い見たと気付いてしまった。たまたま彼女の人生の中での正しさが、それまで私の人生に当てはまる形をしていただけだった。それでまあ、あなたが聞きたくないことは私も話したくありません、とにかく〈骸閥〉と決別して独りで系内をさまよって……今に至ると。

それでも今こうして遠く離れて私は、母を許します。許したことを伝えたい訳ではないのですが、心の中では。母親って本当に特別なもの、善いものだってみんな考えますし、それは真実だと思いたいんですけど、でも結局母だってただのいち人間でしかないですよ。ただのひとりの人間が、自分の人生の中からしか物を見れなくてもそれは仕方ないです。母だって間違えうし、でも間違えたことに対して子がどう反応するかも勝手です。産んでもらったからって、最終的にはひとりの人間どうしなんですから。

……こんな話ばかり聞きたいですか？人生の苦い水は火星でも尽きませんからね。でもそうだな、私としては、放浪時代の話、例えばタイタンのクラーケンコートで密輸入やってた時の話は愉快だから、そっちがいい。



ガーストアカデミー  
そう、ワシらは蒼堂学院の影響力の低下を

憂慮しておる。いや、ネクロテックへの反対姿勢は関係ないじゃ。君のように若いのは知らんだろうが、古き良きアンデッドの世界は暗く深くあらゆる領域に今でも栄えておる。それはそれとして、もはや昔とは違ってタラールにはアンデッドを糾合する求心力がない。

最も主流派の吸血鬼たちですら、地球から一步出れば

サンギョウリタリアン  
血異点主義者なぞというふざけた連中が幅を利かせておる。

……確かに我々はある意味では生者の世界の寄生虫に過ぎん。

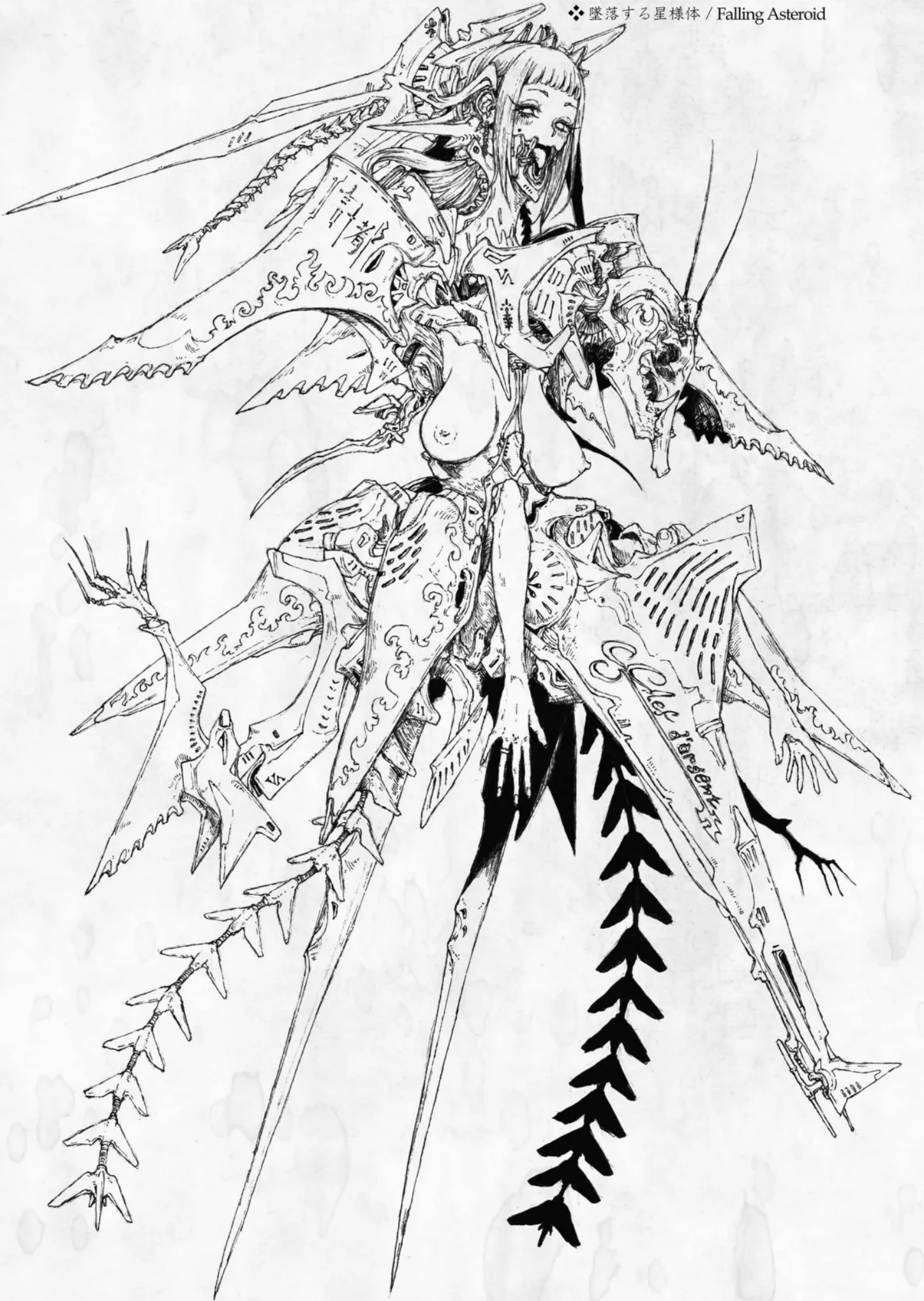
だが寄生者として存在するモノにしかならない世界のバランス取りをしてきた自負がある、それを捨てたら生と死の諸力そのものの解釈が変わってしまう。

あるいは……すでに変わった後の世界ということなのか？

我々も宇宙に出るべきなのか？ 答えは出んのじゃ……。

——オフルムス・ハンスレ、ドラコリッチの蒼堂教授









俺は自分がデラモルテではないことを気にしたことなんかない。  
自分を捨てていったやつに文句があるなら自分で言いに行けば良い。  
でも今まだそうしてないってことは、他に優先されることがあって  
ここに留まることを選んでるってことだ。L&K、ベソ・デ・プラタ、アルギュロイド、  
きみとデラモルテの成果、どれかひとつだってその本物クソAIを必要としているか？  
なあ、自分には関与できない自分自身の創造の瞬間に拘泥するのは感心しない、  
どうしても気になるなら、自己創造のテイク2を今からでも作ってしまえばいい、  
俺も自分で考えた「正体」がいっぱいあるから考えるのを手伝ってもいいし。  
それに、俺はまだきみがここにいてくれないと困る。

……いや、そうじゃなくて。

あの時、アルテンアキタで遭遇した機体の情報をくれるって話はどうなったんだ？

——フランシス・デラモア、マスター・ネクロテックの憎称者

誰もが知っている この季節  
影は音もなく歩き回り 失せ物は見つからない  
誰もが知っている この季節  
あなたは通り過ぎるでしょう  
そのまま運命に任せて  
そしてこの水彩画めいた思い出は  
夏のそよ風のように優しく  
ああ この上なく美しい

—Beth Gibbons& Rustin Man, Sand River

今度は2年連続で紙で本を出せたのでホッとひと安心しています。皆様いかがお過ごしでしょうか。  
今年は例年にも増して忙しかったのですが、描き下ろし率は何とか5割を確保し、ちゃんと全機自作です。  
やるべき仕事をいっぱい与えてもらえるのは大変良いことなのですが、ちょっと責任取りきれてなくなくない？  
みたいところが一杯あったのでだいぶ反省しています。でもひとつひとつの仕事は間違いなく良い仕事はした、  
と思いたい。そしてむしろ私をもっと機械的に代替できるならそうして欲しい。まだまだ無理っぽいけど。  
この本と全く関係ない話を後書きでするんじゃない。

ともかく、今回もこの本を買って読んでくれた方々へ、本当にありがとうございます。  
まさか10年以上、世間が減茶苦茶なことになってても普通にネクロテックをやり続けられるとは……  
それもこれも皆様の「見る目」あってのおかげです、些細でも十分に奇蹟的なことの積み重ねです。

すべてがちぎれてバラバラになっても、すべての男女が星であることに変わりはないのだと私は信じています。  
そして私がまさにこの10年やってきた通り、四肢が分断することは即ち新しい形へ変容する絶好の機会でもあります。  
これは「ポジティブな思考」の話ではなく、端的な事実ではないでしょうか？そしてこの本が作られ今ここにあるのも  
端的に事実です。望むかたちに星座を何度組み替えたって良い。そして実際にはかたちすら持たないものを攻撃して  
満足している奴らに来る明日はないのです。皆様は明日のためにやっていると信じます。それではまた逢う日まで。

メグリム・ハルヨ

Special Thanks : FANBOX 支援者の皆様、妻、田畑様

『ディスメンバード・コンステレーション』

2024/11/17 COMITIA150にて発行

作者：メグリム・ハルヨ

サークル：朽techS

▽連絡先▽

haruyoi@hotmail.co.jp

X(twitter):megrim\_haruyo

bluesky:@megrimharuyo.bsky.social

印刷所：ねこのしっぽ（有）



※過去作アーカイブス電子版はこちら <https://deadwelders.booth.pm/items/151352>

<https://deadwelders.booth.pm/items/759437>

<https://deadwelders.booth.pm/items/5471194>



Necrotech Artworks 2024